

**製品名: NDUFB9 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab14508**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	22kDa

**抗原情報**

遺伝子名	NDUFB9 NDUFB9; LYRM3; UQOR22; NADH dehydrogenase [ubiquinone] 1 beta subcomplex subunit
別名	9; Complex I-B22; CI-B22; LYR motif-containing protein 3; NADH-ubiquinone oxidoreductase B22 subunit
遺伝子 ID	4715.0
SwissProt ID	Q9Y6M9
免疫原	抗血清はヒト NDUFB9 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 102-151

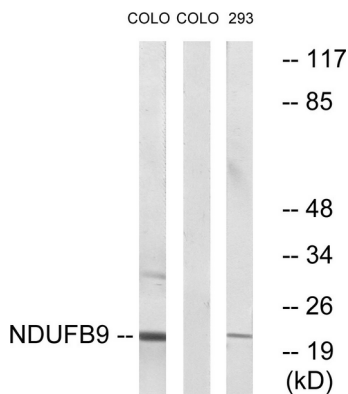
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ミトコンドリア酸化リン酸化複合体I (ニコチンアミドアデニンジヌクレオチド: ユビキノン酸化還元酵素) のサブユニットです。複合体Iはミトコンドリア内膜に局在し、ニコチンアミドアデニンジヌクレオチドの脱水素反応とコエンザイムQへの電子伝達を担います。複合体Iの欠損は、酸化リン酸化疾患において最もよく見られる欠陥であり、致死的な新生児疾患、肥大型心筋症、肝疾患、成人発症型神経変性疾患など、様々な病態を引き起こします。この遺伝子の偽遺伝子は、5番染色体、7番染色体、8番染色体上に存在します。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq提供、2015年7月]、機能: ミトコンドリア膜呼吸鎖NADH脱水素酵素(複合体I)の補助サブユニット。触媒作用には関与していないと考えられている。複合体IはNADHから呼吸鎖への電子伝達に機能する。この酵素の直接電子受容体はユビキノンであると考えられている。、類似性: 複合体I L Y Rファミリーに属する。、サブユニット: 哺乳類の複合体Iは45の異なるサブユニットから構成される。、

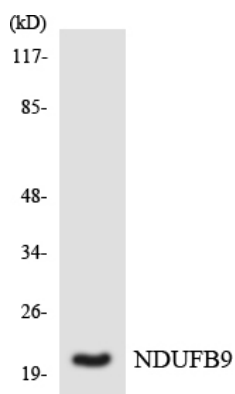
## 研究分野

酸化的リン酸化、アルツハイマー病、パーキンソン病、ハンチントン病、

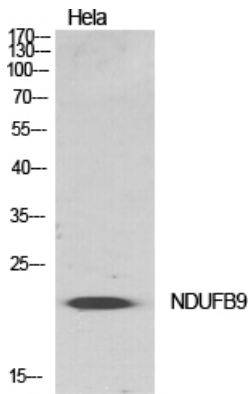
## 画像データ



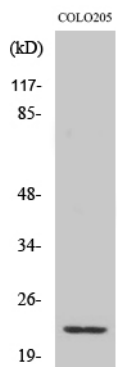
COLO205細胞および293細胞のライセートをNDUFB9抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



NDUFB9抗体を使用したCOLO205細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



1: 500 に希釈した NDUFB9 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



1: 500 に希釈した NDUFB9 ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット分析